

教科名
総合的な学習の時間

大竹市立大竹中学校 第1学年

指導者 佐伯 茜 松本 郁
隅田 千尋 小川 陽弘
柴田 美沙 吉村 孝弘

単元名 『大竹っていいよね～！プロジェクト』

～もう“通り道”なんて言わせない～

本単元で育成する資質・能力 課題発見・解決能力

- 1 日時 令和5年10月6日（金） 5校時
- 2 学級 第1学年（男子53名、女子51名 計104名）
- 3 場所 大竹市立大竹中学校 1学年教室
- 4 単元について

<単元観>

本校の総合的な学習の時間における本質的な問いを「大竹のまちに愛着をもち、大竹のまちを支える人になるためにはどうしたらよいか」とし、第1学年の探究課題の1つを「大竹市を“通り道”と言わせないために自分たちができることは何だろう」と設定した。小学校から行っている地域を題材にした単元で、大竹市活性化案を考えるだけでなく、実行に移すために何ができるかを考え、実際に実行することをゴールにした単元である。

観光地である宮島、岩国の中間点にある大竹市は観光客が素通りしている現状であることに着目させ、せっかく訪れている観光客に大竹市の魅力をアピールするというプロジェクトを設定することで、小学校までに培われてきた郷土愛を深め、さらに情報収集することで、大竹市の魅力を再発見することができるように設定した単元である。

<生徒観>

本学年の生徒は、大竹小学校最後の1年間で、大竹市の魅力、伝統、自然について調べ、デジタル新聞にまとめる活動、大竹市特産の和紙を使った紙太鼓を地域の方に教えてもらい、演奏する活動、大竹市のふるさと納税返礼品を考える活動と地域を題材にした活動を行ってきた。中学校では、小学校で考えた案を振り返り、実際に実行できるよう、“やってみよう！”を合言葉に活動を行っている。1学期は「大竹市活性化のために自分たちができることは何だろう」を課題とし、各クラスで様々な案から「大竹市PR動画を作る」「大竹市を掲げたお土産を作り、動画でアピールする」「大竹市のPRキャラクター“コイちゃん”グッズを作る」に決定したところである。

7月に実施した学校評価アンケートでは、「自分が誰かのために役に立っている」という質問項目に対して、本学年の生徒の肯定的回答は55.9%であった。案を考えるだけで、実際に行動に移すことができず、自己有用感を高められていない現状がある。2学期以降はゲストティーチャーの意見や考え、思いをもとに実際に大竹市の活性化案を実行し、自己有用感を高めていきたい。

<指導観>

まず、大竹市が“通り道”と言われていることを知らせ、「どうしたら“通り道”と言われなくなるのか」を課題とする。小学校での総合的な学習の時間を振り返らせ、考えてきた大竹市活性化案を収集し、その中で各クラスで“実行したい”と思えるものについて決定し、どのように実行するかを考えさせる。考えていく中で、大竹市の活性化に詳しいゲストティーチャーを招待し、大竹市への思いや考えを生徒に伝えてもらうのと同時に、活性化案について批評していただく。その批評をもとに、新しい課題を発見し、解決していくために、どのようなことができるか情報収集し、改善案を考えさせる。最終的に考えた案を実行させる。大竹市のためのプロジェクトを通して、自己有用感を高めるとともに、本校総合的な学習の時間の本質的な問いである「大竹のまちに愛着をもち、大竹のまちを支える人になるためにはどうしたらよいか」についても考えさせたい。また、何度も問い直され答えが更新され続ける課題に対して自ら課題を発見し、解決していく能力を育成していきたい。

6 単元の目標

○大竹市の活性化案を考える活動を通して、大竹市に必要なことを理解し、自分たちができることを考えるとともに、大竹市のために実行することができる。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
<p>①大竹市が“通り道”と言われている理由を理解している。</p> <p>②大竹市を活性化させるために必要な情報を収集し、適切な方法で実施している。</p> <p>③「大竹市のために活性化案を実行したい」という思いの高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①大竹市が“通り道”と言われているという問題を明らかにし、解決への見通しを持って計画している。【課題の設定】</p> <p>②大竹市の活性化案に必要な情報について、多様な方法の中から効果的な手段を選択し、主体的、協働的に必要な情報を収集している。【情報の収集】</p> <p>③大竹市の活性化案に必要な情報を取捨選択し、解決に向けて考えている。【整理・分析】</p> <p>④大竹市の活性化に向けて、自分の考えをまとめ、適切な方法でゲストティーチャーに訴えている。【まとめ・表現】</p>	<p>①活動の振り返りを通して、自分の考えを試行錯誤し、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>②自他の考えを尊重しながら、協働して、課題解決に取り組んでいる。</p> <p>③大竹市の問題に自分のこととして取り組んでいる。</p>

8 単元のルーブリック

知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
①	A	大竹市が“通り道”と言われている理由を根拠を持って説明している。	①	A	大竹市が“通り道”と言われているという問題に対して、解決への見通しをもって計画をし、解決の方法や手順を考えている。	①	A	活動の振り返りを通して、自分の考えを試行錯誤し、他者の考えを尊重しながら、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。
	B	大竹市が“通り道”と言われている理由を理解している。		B	大竹市が“通り道”と言われているという問題を明らかにし、解決への見通しを持って計画している。		B	活動の振り返りを通して、自分の考えを試行錯誤し、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。
②	A	大竹市を活性化させるために必要な情報を収集し、適切な方法で実施し、目的や場面に応じて、適切な方法で実施し、正しい情報を入手している。	②	A	大竹市の活性化案に必要な情報について、多様な方法の中から効果的な手段を選択し、テーマに合わせて主体的、協働的に情報を蓄積させている。	②	A	自他の考えを尊重し、お互いの考えを批評しながら、協働して、課題解決に取り組んでいる。
	B	大竹市を活性化させるために必要な情報を収集し、適切な方法で実施している。		B	大竹市の活性化案に必要な情報について、多様な方法の中から効果的な手段を選択し、主体的、協働的に必要な情報を収集している。		B	自他の考えを尊重しながら、協働して、課題解決に取り組んでいる。
③	A	「大竹市のために活性化案を实行したい」という意欲の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	③	A	大竹市が活性化するように、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係づけたりしながら、根拠と理由を持って、解決に向けて考えている。	③	A	大竹中学校の伝統継承に自分のこととして取り組み、自分ができることを考えている。
	B	「大竹市のために活性化案を实行したい」という思いの高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。		B	大竹市の活性化案に必要な情報を取捨選択し、解決に向けて考えている。		B	大竹市の問題に自分のこととして取り組んでいる。
			④	A	大竹市の活性化に向けて、自分の考えをまとめ、適切な方法でゲストティーチャーに訴えていて、相手の意見を受け入れている。			
				B	大竹市の活性化に向けて、自分の考えをまとめ、適切な方法でゲストティーチャーに訴えている。			

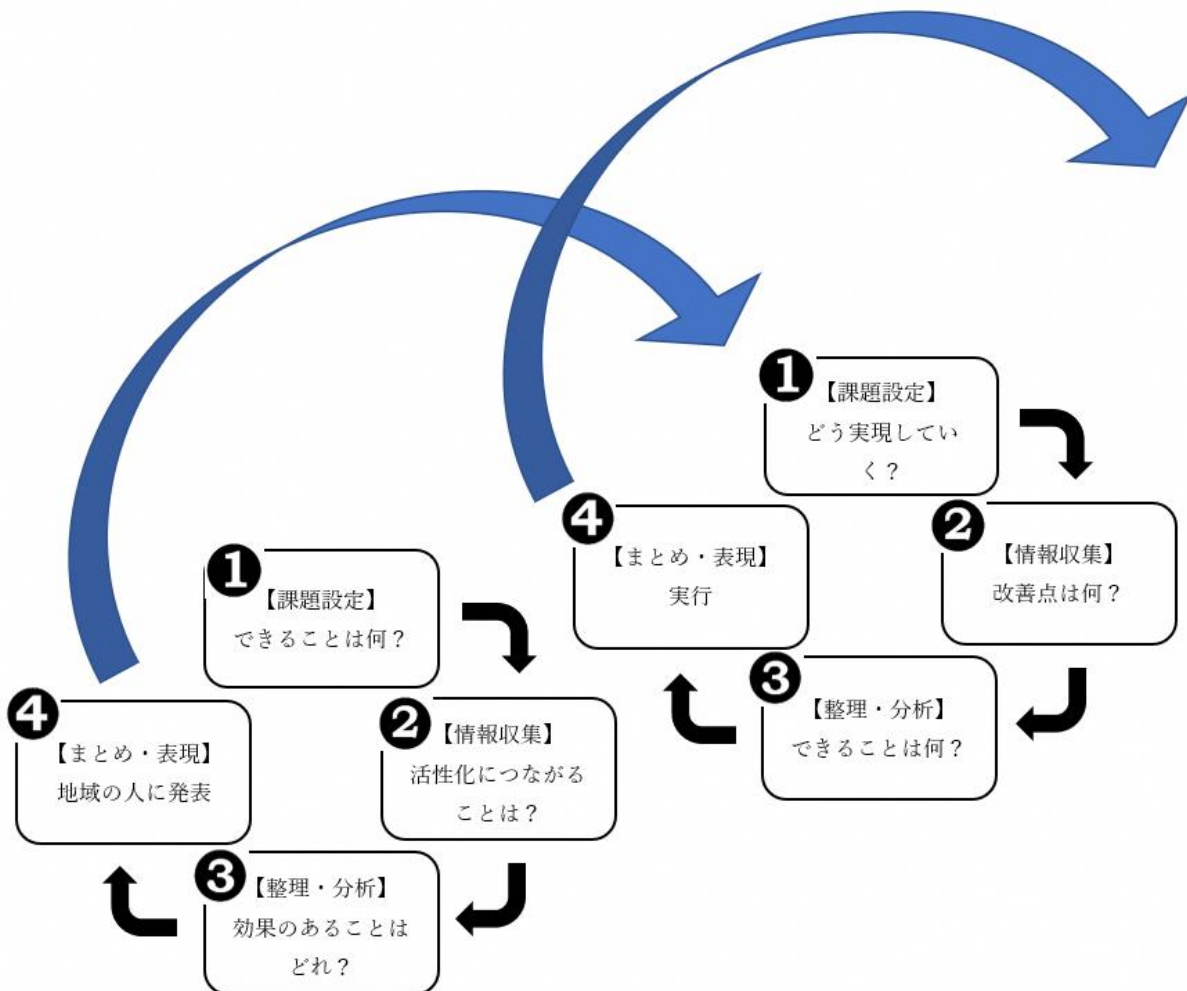
9 単元の全体計画（全25時間 15/25 本時）

次	学習活動	知・技	思・判・表	主体的	評価方法
1	1 <課題の設定①> ○小学校の総合的な学習の時間でしたことを振り返る。 福祉体験，大竹市ふるさと納税返礼品案を考える…等 ○小学校で考えたことを実行したいという思いを持つ。 （1時間）	①		①	・リフレクションシート ・発言
	2 <情報の収集①> ○大竹市活性化案として考えたことを振り返り，どのような案があったかを確認する。 ○案の中から“実行したい”と思える案を決める。 ○“実行したい”と思える案をどのように実行していくかを具体的に考える。 ○実行するために必要なことを考える。 （5時間）	②			・リフレクションシート ・発言 ・ワークシート
	3 <整理・分析①> ○収集した情報をもとに，どのように実行するかを決定する。 ○実行するために，どのような役割があるかを考え，計画を立てる。 ○役割ごとに準備する。 （6時間）			②	・リフレクションシート ・発言 ・役割分担，計画表
	4 <まとめ・表現> 中間発表 ○大竹市活性化に詳しい方を招待し，大竹市活性化案を発表する。 （2時間）	③			・リフレクションシート ・お礼状
2	5 <課題の設定②> ○中間発表で得た批評から実現するために必要なことや自分たちの課題は何かを見付ける。 （1時間）		①		・リフレクションシート ・発言 ・ワークシート
	6 <情報の収集②> ○課題をもとに改善案を考える。 （4時間）		②		・リフレクションシート ・発言 ・ワークシート
	7 <整理・分析②> ○改善案からどのように実行するかを決定する。 ○実行するために，どのような役割があるかを考え，計画を立てる。 ○役割ごとに準備する。 （5時間）		③		・リフレクションシート ・ワークシート
	8 <まとめ・表現> ○大竹市活性化案を実行する。 ○実行したことについて振り返りを行う。 （2時間）		④	③	・リフレクションシート ・レポート

10 単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

資質・能力	目指す生徒像
課題発見・解決能力	大竹市の現状を知り，地域の方の考えや思いを知ることで，課題を見付け，それを解決するために自分たちができることを考え，実行し，大竹市のためになっているという自己有用感高めることで，主体的に課題発見し，解決していくことができる。

単元構想図



11 本時の展開

<p><本時の目標> 批評をもとに，“いいよね”を増やすためにできることを考える。</p>	<p><ゴールイメージ> 考えた活性化案に対しての批評をもとに，改善案を考えることができる。</p>
---------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------

	学 習 活 動	指導上の留意事項
見通しを持つ	1 中間発表について振り返る。	◇中間発表についてリフレクションシート，ワークシートを確認させる。
	2 本時のねらいを確認する。	◇生徒に本時は何をすべきかを考えさせながら，本時のめあてを考えさせ，掲示する。
	批評をもとに，“いいよね”を増やすためにできることを考えることができる。	
自分の考えをもつ・考えを交流する	3 中間発表でのゲストティーチャーの話を確認する。	◇中間発表でのゲストティーチャーからの批評やアドバイスを思い出させ，グループで交流させる。
	4 確認した批評をグルーピングする。	◇様々な批評をグルーピングし，整理させる。
	5 ゲストティーチャーの話の中の大竹への思いを確認し，対象をしぼる。	◇ゲストティーチャーの思いをワークシートで確認させる。 ◇誰に“いいよね”と思ってもらいたいのかを根拠や理由を持って，考えさせ，交流させる。 ◇対象を決定させる。
	6 決定した対象に対して，改善案を考える準備をする。	◇“いいよね”を増やすために必要なこと，足りないものを考えさせる。(ICT活用)
	7 全体で共有し，整理し，今後の方向性を決める。	◇これからクラスですべきことをまとめさせる。
振り返る	8. リフレクションシートを記入する。	○本時の振り返りと次時にしたいことを記入させる。
	9. まとめ	○全体の活動を通して良かった点と改善点を全体で共有し，次時につなげる。